資料 2-1

第３回保健医療計画策定ワーキンググループ会議における主な議論について

（開催日８月９日（水））

○ 医療従事者確保（歯科医師）

分野	主　な　議　論
医療従事者確保（歯科医師）	（１）現状と課題について ・歯科医師も高齢化しており、そういったデータや地域偏在を記載すべき。 →「がん・生活習慣病・歯科・医薬ＷＧ」で検討している「歯科口腔医療」の分野に歯科診療所の地域偏在について記載。平均年齢等のデータは、他職種の記載方法とのバランスを考え、記載しない。 （２）施策の展開について ・専門分野に対応する（歯科）臨床医の増加は必要。 ⇒資料２－２　１ページ 「第２　施策の展開」の専門分野に携わる歯科医師の確保と育成に記載。 ・高齢化社会を迎える中で、在宅歯科医療は重要なため、訪問歯科診療を実施する歯科医師の増加を記載すべき。 →「在宅医療」の分野に記載しているが、重要性を鑑み、「がん・生活習慣病・歯科・医薬ＷＧ」で検討している「歯科口腔医療」の分野に再掲として加筆。 （３）コラムについて ⇒資料２－２　２ページ 「歯科医師の新しい役割」の内容を記載

資料 2-2

歯科医師

第１　現状と課題

1　医療施設従事歯科医師数

○　平成 26 年（2014 年）末現在の本県の医療施設従事歯科医師数は 1,547 人、人口 10 万人当たり 73.4 人であり、全国平均の 79.4 人を下回っています（表１）。

○　人口 10 万人当たり病院勤務歯科医師数は 3.3 人、医育機関附属病院勤務歯科医師数は 7.4 人と、全国平均の 2.4 人、7.1 人を上回っています（表１）。

○　平成 26 年 12 月末時点の県内の診療科目別歯科医師数は、主たる診療科名のうち矯正歯科、歯科口腔外科で全国平均を上回っていますが、複数回答では、全ての診療科目について、全国平均を下回っています（表２）。

○　周術期口腔機能管理による早期退院支援の強化、及び高齢化に伴う誤嚥性肺炎の予防や摂食嚥下機能の維持向上等についてのニーズが増加していることから、病院勤務歯科医師等のより一層の充実が望まれます。

【表１】業務の種別従事歯科医師数（人口 10 万対）

区分	歯科医師数(総数)	病院	医育機関附属病院	診療所
長野県	73.4	3.3	7.4	62.6
全国	79.4	2.4	7.1	69.9

（厚生労働省「平成 26 年度医師・歯科医師・薬剤師調査」）

【表２】診療科目別医療施設従事歯科医師数（人口 10 万対）

区分	診療科名(主たる)				診療科名（複数回答）			
	歯　科	矯　正 歯　科	小　児 歯　科	歯科 口腔外科	歯　科	矯　正 歯　科	小　児 歯　科	歯科 口腔外科
長野県	63.0	3.0	1.6	3.7	66.3	14.4	28.3	14.6
全国	69.6	2.9	1.6	3.2	72.5	17.6	34.8	22.3

（厚生労働省「平成 26 年度医師・歯科医師・薬剤師調査」）

第２　施策の展開

1　専門分野に携わる歯科医師の確保と育成

○　誤嚥性肺炎の予防、摂食嚥下機能の維持向上、周術期口腔機能管理を行うことでの早期退院支援の観点から、病院勤務歯科医師等の確保と資質向上の取組を図ります。

○　矯正歯科や小児歯科、歯科口腔外科等の専門診療科の歯科医師の充実を支援します。

第３　数値目標

区分	指　標	現状 (H29)	目標 (H35)	目標数値 の考え方	備　考 (出典等)
S	人口 10 万当たり歯科医師数 病院勤務者 医育機関付属病院勤務者 介護老人保健施設	 3.3 人 7.4 人 0 人 (H26)	 3.3 人以上 7.4 人以上 0 人以上	全国平均を上回る状況を維持する	厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」
S	人口 10 万当たり診療科目別医療施設従事歯科医師数（診療科名複数回答） 矯正歯科 小児歯科 歯科口腔外科	 14.4 人 28.3 人 14.6 人 (H26)	 14.4 人以上 28.3 人以上 14.6 人以上	現在(H26)の全国平均との差を現状より縮める （全国平均） (17.6 人) (34.8 人) (22.3 人) (H26)	厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」

注）「区分」欄　S（ストラクチャー指標）：医療サービスを提供する物的・人的資源及び組織体制等を測る指標
P（プロセス指標）：実際にサービスを提供する主体の活動や、他機関との連携体制を測る指標
O（アウトカム指標）：医療サービスの結果として住民の健康状態や患者の状態を測る指標

歯科医師の新しい役割

歯科医師は、食べる、話す、息をする、という大切な機能をもつ口腔の健康を支えることで、県民の QOL の向上に重要な役割を果たしてきました。いつまでも自分の歯で噛んで食事ができることは、人生の大きな喜びであり、また、口腔の機能が健康な人は、活動的な生活を送り、医療費も少なく、元気で長生きといった知見も得られています。

近年は「むし歯の治療」から「歯周病の予防」へと疾病構造が変化すると共に、歯周病等の歯科疾患が全身疾患（心疾患、糖尿病、肺炎など）に及ぼす影響が大きいことがわかってきており、口腔の健康や歯科医師の果たすべき役割が改めて見直されています。

超高齢化社会の到来による高齢者等への摂食嚥下機能の維持向上や、がん患者等への周術期口腔機能管理をはじめとする新たな分野に加え、これまで以上に予防歯科への期待も高まっています。

かつてのような“むし歯を治す歯医者さん”から“歯科口腔医療によって県民の健康を守る医療人”へと役割が大きく変わってきている中、新たな役割を担いつつ、これまでの先輩方と同じように県民の期待に応えようと努力する歯科医師が地域で活躍しています。

※　「2 施策の展開」及び「3 数値目標」については、12 月 21 日に開催される長野県高齢者プラン策定懇話会における議論を踏まえ、変更する場合があります。